

授業の考察②<高等学校> 「トラブルにならないような話し方を学ぼう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、高等学校3時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- | |
|---|
| ・振り返りシートの質問項目「トラブルにならないような話し方のポイントが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること |
| ・振り返りシートの質問項目「トラブルにならないような話し方のポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること |

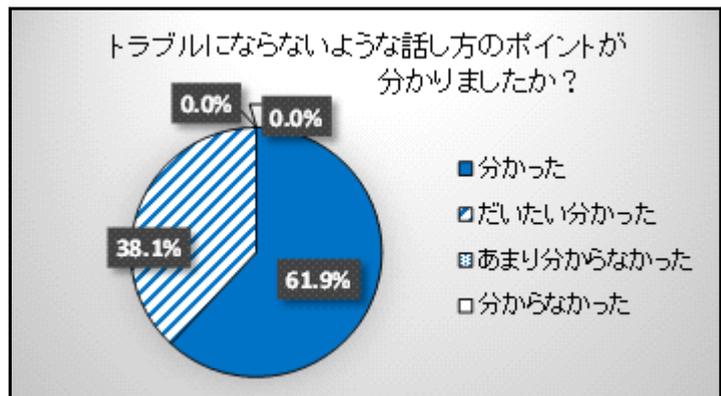
1 トラブルにならないような話し方のポイントの理解について

○振り返りシートの「トラブルにならないような話し方のポイントが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%でした（資料1）。

○話し方の3つのモデリングを見て、「自分も相手も大切にした話し方のどのようところが良かったか」という教師の発問に対して、生徒は積極的に意見を述べていました。

○モデリングシナリオのスライドを提示して話し方のポイントを考えさせたため、生徒は真剣に取り組んで意見を発表していました。

○話し方のポイントがスライドで提示され



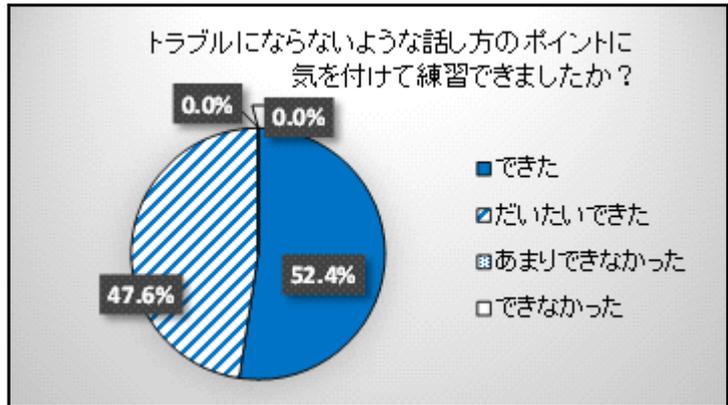
資料1 話し方のポイントの理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

るたびに、生徒は自主的にワークシートの空欄を埋めるなど、意欲的に参加して理解を深めていました。

- ◇3つのモデリングについて、教師の負担を減らして授業をよりスムーズに展開することができるように、指導資料としてモデリングの動画を追加することとしました。

2 トラブルにならないような話し方の練習について

- 振り返りシートの「トラブルにならないような話し方のポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は100%でした（資料2）。
- 生徒にとって身近な掃除の場面を設定したことで、生徒は4つのポイントを用いた台詞づくりにスムーズに取り組んでいました。
- 教師がA役を務め、生徒がB役となって発表し、発表された台詞の良かったところについて活発な意見交換ができました。



資料2 話し方の練習についてのアンケート結果(振り返りシートより)

以上のことから、生徒はトラブルにならないような話し方についての理解を深めるとともに意欲的に練習に参加しており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

II 次時につながる内容であったかについての考察

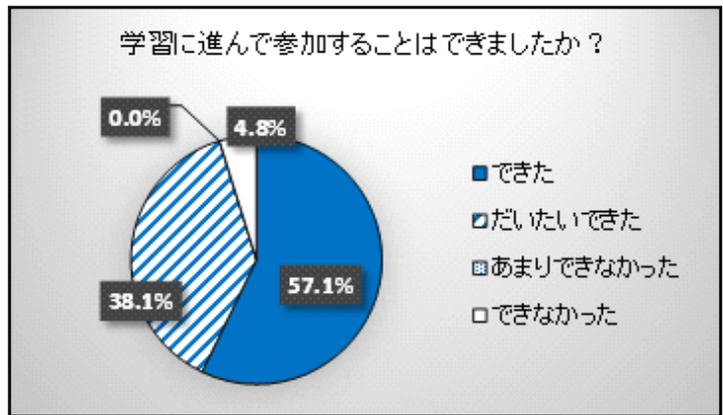
○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

次時につながる内容であったかを、Iの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

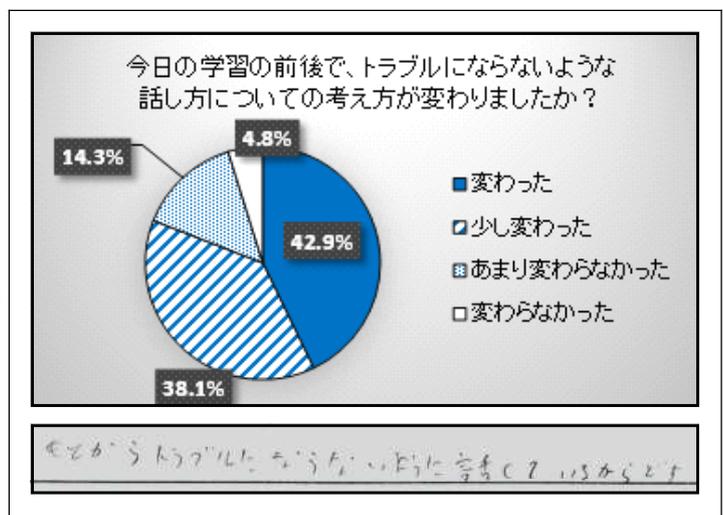
・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、トラブルにならないような話し方についての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は95.2%で、ほとんどの生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料3）。



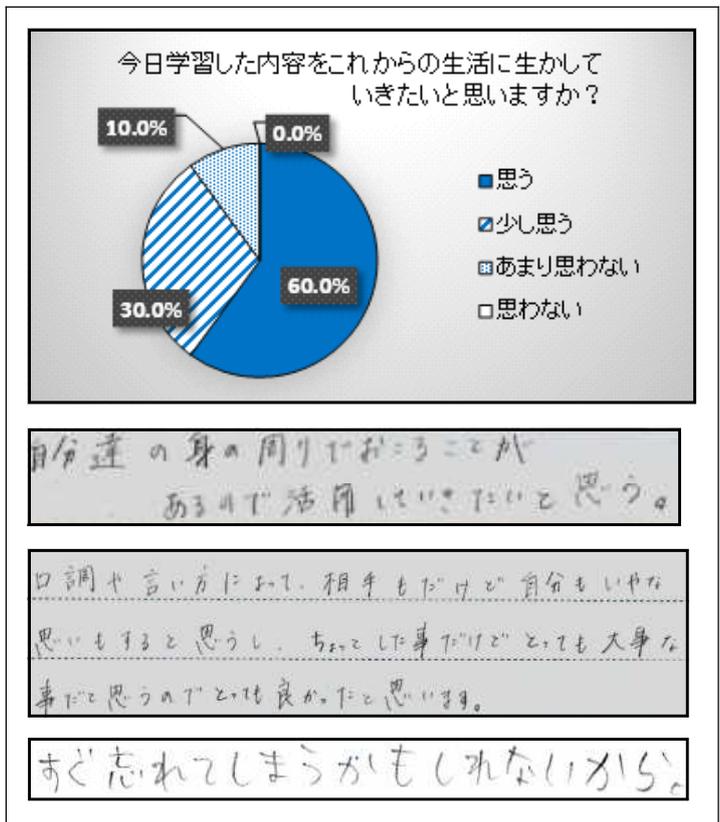
資料3 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○振り返りシートの「今日の学習の前後で、トラブルにならないような話し方についての考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は81.0%で、ほとんどの生徒が学習の前後でトラブルにならないような話し方についての考え方が変わったことが分かりました。一方、「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と回答した生徒の記述には、変わらなかった理由として、トラブルにならないような話し方について既に知っていた、あるいは実践していたとあり、学習した内容が再確認の意味をもつ生徒もいることが分かりました（資料4）。



資料4 学習の前後で、トラブルにならないような話し方についての考え方が変わったかについてのアンケート結果と生徒の感想(振り返りシートより)

○振り返りシートの「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思いませんか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は90.0%で、ほとんどの生徒が学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思っていることが分かりました。一方、「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒の記述には、すぐ忘れてしまうかもしれないからとあり、一般化のための日常の取り組みや発達の段階に応じた学習の継続性が必要であることが分かりました（資料5）。



資料5 学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいかについてのアンケート結果と生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。